

令和4（2022）年度 学校の計画

I 校訓

慈じ光こう照しょう曜よう（み仏の み教え仰ぎ 清く 正しく 朗あかく 美うましくあれ）

II 教育目標

- (1) 謙虚と感謝の毎日を送る。
- (2) 円満な人格と豊かな情操を養う。
- (3) 社会正義を尊び自主独立の精神を養う。

III めざす学校像

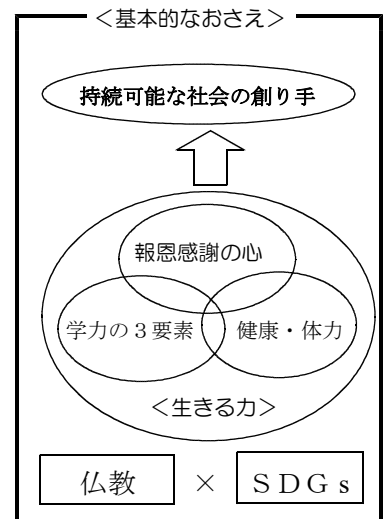
高い次元の文武両道を目指し、夢が実現できる学校

- 知徳体にわたる「生きる力」を育む学校
- 一人ひとりの夢や目標を確実に実現できる学校
- 社会に役立つ人材を育てる学校

IV めざす生徒像

持続可能な社会の創り手となる生徒

- 「報恩感謝」の心を大事にする生徒
- 学力の3要素を確実に身に付ける生徒
(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、
③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)
- 自らの健康の増進と体力の向上に励む生徒



V めざす教師像

自校に誇りを持ち、生徒のために自らも成長し続ける教師

- 教師集団の一員としての自覚をもって行動する教師
- 自らが創意工夫して常に高い教育を目指す教師
- 様々な困難を抱える生徒に共感的な支援ができる教師

VI 基本方針

- 1 龍谷総合学園の加盟校と連携して持続可能な社会の創り手となる生徒を育成することにより、中学生や保護者から積極的に選ばれる学校づくりに努める。
- 2 教職員の共通理解と資質向上のために実践的かつ継続的な研修の充実を図ることにより組織の力を結集して学校課題の解決に努める。
- 3 地域社会との連携を密にし、父母の会などの協力を得て、生徒の心身の育成に努める。

VII 令和4年度の重点目標

- 1 『円滑な校舎移転を進めるべく、教職員・生徒が協力し、計画的に遂行する』
- 2 『龍谷高校の未来を見据えたコース・フィールド内容の構築と広報活動の強化』
- 3 『新校舎・新コースに付合する校内組織体制の再構築と規約等の見直し』

Ⅷ 学校運営の重点

- 1 龍谷の強みを生かした教育の展開
 - ① 龍谷総合学園（25高等学校、9大学・短大）と連携した教育活動
 - ② 高大連携を強化・充実させた教育活動
 - ③ 宗派及び関係寺院の協力を受ける教育活動（体験学習・心の教育等）

- 2 「まごころある国際人」を育成する教育の展開
 - ① 「誰一人として取り残さない社会の創成に寄与するために、仏教精神に基づき、具体的に行動できる人」を育成する教育活動
 - ② SDGs＝「持続可能な開発目標」を理解し、豊かな未来社会のあり方を主体的に考えることのできる人材を育成する教育活動
 - ③ 「あいサポート（障害を知り、共に生きる）運動」に積極的に取り組み、誰もが暮らしやすい地域社会の実現に貢献できる人材を育成する教育活動
 - ④ ユネスコスクール認定校として、「国際理解」「郷土理解」「社会貢献」に生徒自らが主体的に取り組む教育活動

- 3 「豊かな未来社会の創成に寄与できる人材」を育成するカリキュラムの展開
 - ① 現代社会の課題を見つけ出す力の育成
 - ② 新しい未来を構想し、実現に向けて努力する力の育成
 - ③ 周囲とのコミュニケーションを通して、自分を見つめ、他人を理解する力の育成
 - ④ 限りある命の尊さを知り、人の気持ちに共感できる力の育成
 - ⑤ 社会貢献やボランティア活動の価値と喜びが分かる力の育成
 - ⑥ 学びの意味・目的を知り、生涯にわたって学び続ける力の育成

- 4 「龍谷の目指す教育」を実現するために必要な教職員の資質向上の取組強化
 - ① 「龍谷だからできる教育」「龍谷の教育の価値」についての共通理解を図る
 - ② 「龍谷の目指す教育」を実現するために必要な授業力獲得のための取組の強化
 - ③ 「個々の創意と意欲」を相互に認め、活動に反映する中で課題改善に力を結集する

- 5 「校舎移転」に向けた周到な準備と協力体制の強化
 - ① 具体的な移転計画に基づき、全職員・生徒が協力し円滑な移転準備・作業に努める
 - ② 移転後の教育整備を迅速に進め、落ち着いた学習環境の早期実現に努める
 - ③ 校舎移転後の校内組織体制及び再構築に向け、移転前からの周到な準備に努める

- 6 「新しい龍谷」の多様性の推進
 - ① 地域連携や人材バンクを活用し、様々な人々との関わりから多様な経験機会をつくる
 - ② 多様な選択科目と連動したGIGAスクールを構築し、生徒の個性を伸長する
 - ③ 特別支援委員会を通して、多様な生徒に適した指導法や個別の学習計画を模索する